

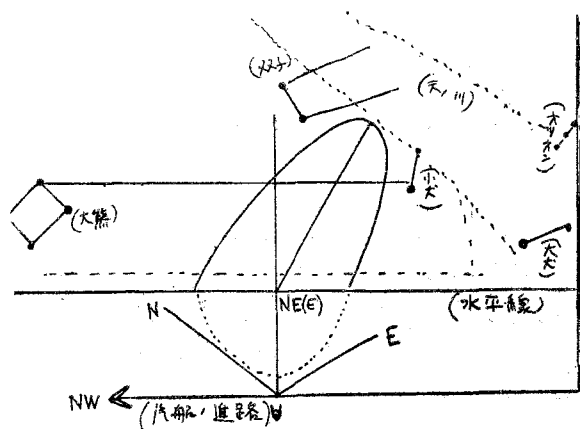
黄道光を見た思出

飯 義 壽

天界2月號の淺野氏の黄道光のスケッチを興味深く拜見して、私のスケッチブックからも、茲に轉寫して見ました。私の見ましたのは全然形が異つて居ますし、中心が「黄道」⁷と思はれる場所よりも非常に北の方へ寄つて居ました。

時は1935年の9月11日午前4時—5時、今しがた西の水平線に十三夜の月が沈んだ黑暗夜、然かも嵐の後らしい無雲、無風波!! 星を眺めるのに、こんなコンディションは又とないかと思はれる様な美しい空。——數年前アメリカからの歸途ハワイに着く前日早曉、同じ様なコンディションで、すばらしい黄道光をエンジョイした時の事を思ひ出し、反對側の甲板に廻つて見ると果して、すばらしい此景色なのです。然かも靜かな水面に寫るその影の明るさ!

進みゆく船上からの測定ですから、方位の角度は多少相違して居るかも知れませんが、大熊、双子、大犬、小犬の各 α 、 β 星を結んだ線の長さ及位置と比



較して、黄道光の廣さや傾きは正確に近いつもりです。大熊及小犬の α 星を結ぶ線は水平線と平行するもので、其高さの測定に参照して下さい。斯ふ云ふ星の位置になる時刻には水平線に近く、點線で示した様な薄明が來て30分も後には東天は明るくなつて黄道光も影を消してしまいました。(今治市)